

学生と教員との距離

ライフデザイン学科（以下、ライフ）の特徴の1つとして、学生と教職員との距離が近いことが挙げられます。それを可能にしているのが、高校までの担任制度にあたる「クラスアドバイザー制度」です。ライフでは、専任教員が1年生1クラス、2年生1クラス、それぞれ10～13人程度の学生を受け持っていて、1人ひとりにきめ細かい指導を行っています。さらに、学生との距離を近くしているのが「週間ポートフォリオ」です。週間ポートフォリオとは大学の情報配信ツール「光華 navi」を通じて学生と教員が行う相互コミュニケーションのことで、クラスアドバイザーは、学生の授業への出席状況などを把握することで、学生の少しの変化にも迅速にサポートできる体制をとっています。



また、クラスアドバイザーとの相性を考えサブ・クラスアドバイザー制度を設けています。男性教員がクラスアドバイザーの場合には、女性教員がサブ・クラスアドバイザーを務めることで、学生がどんな悩みでも安心して相談できる体制作りを心掛けています。

学生と職員との距離

ライフには、コモンズというフリースペースがあります。コモンズは学生のために開放されたスペースで、学生は、お昼ご飯を食べたり、自習をしたり、課外活動のミーティングをしたりと思いつきの時間を過ごすことができます。学生リーダー組織「D'＊Light」の活動拠点としても大いに活用されていて、毎日、多くの学生で賑わっています。



このコモンズに続くスペースを仕事場にしているのが4人の職員です。授業のサポート、学科ホームページの更新…等、主とする職務はそれぞれ違いますが、その一つとなっているのがコモンズを訪れる学生のサポートです。4人の職員は、それぞれの経験を生かし、時には姉として、時には先輩として、さまざまな相談に乗ってくれています。ライフを卒業し、他学科に編入した学生が職員と話をするために訪れるシーンもよく目にします。ライフの学生が一番リラックスできるのがコモンズなのです。

